

コンゴ(民)月例報告
政治関連
2018年7月

主な出来事

- 9日, 同日夜の到着が予定されていたグテーレス国連事務総長とムーサ・ファキ AUC 委員長のコンゴ(民)訪問が延期になった。
- 14日, 大統領令により, コンゴ(民)国軍(FARDC)の幹部の人事異動が行われた。2010年6月に人権活動家のチェベヤ氏らの殺害を指示した疑いで警察長官の職を追われたヌンビ將軍は, FARDC の監察官の要職に任命された。
- 19日, カビラ大統領は両院を前に, 「国家の状況」に関する演説を行った。12月に予定されている選挙は予定どおり行い, 選挙費用は国が全額負担すると繰り返した。
- 24日, ベンバ MLC 党首は, ブリュッセルのホテルで, 6月8日に国際刑事裁判所(ICC)の上訴審で無罪判決を受けてから初となる記者会見を行い, 8月1日にコンゴ(民)に帰国し, 大統領選挙立候補の届け出を行う意思を示した。
- 27日, カビラ大統領は, 在職中の罪で告訴はされない等の元大統領(及び両院議長)の地位に関する法律を公布した。
- 30日, カトウンビ元カタンガ州知事は, コンゴ(民)の民間航空当局に対し, 自身を含む7名が搭乗する航空機のルブンバシ市ルアノ空港への8月3日の着陸許可を求めた。また, 着陸が拒否された場合には, ザンビア経由で陸路にて帰国する用意があると述べた。

1. 内政

(1) 憲法裁判所裁判官及び検事長の宣誓式

・4日, 新たに選出された憲法裁判所の裁判官4名とミンガ検事長の宣誓式がカビラ大統領出席のもとで執り行われた。

(2) 選挙のための与党グループ FCC の署名

・7日, カビラ大統領が Autorite Morale(倫理的権威)を務める選挙のための与党グループ「FCC (Front Commun du Congo, コンゴ統一戦線)」は, 党憲章への署名を開始した。PALU(統一ルムンバ派)は党としての署名は行っていないが, 同党所属のカブウェルル鉱物資源大臣及びマトゥク労働大臣が PALU の党名で署名した。

(3) グテーレス国連事務総長とムーサ・ファキ AUC 委員長のコンゴ(民)訪問の延期

・9日, 同日夜の到着が予定されていたグテーレス国連事務総長とムーサ・ファキ AUC 委員長のコンゴ(民)訪問が延期になったとメディアが報じた(9日付 RFI)。

(4) 政府は203百万ドルの選挙資金を支出

・12日, ヤヴ財務大臣は, 5日から行われている政府/CENI/CNSA(合意フォローアップ国家評議会)の三者協議の席上, コンゴ(民)政府が今年1月から7月10日までに, 選挙費用435百万ドルのうち, すでに203百万ドルを支出したと発言した(12日付 Radio Okapi)。

(5) コンゴ(民)国軍(FARDC)幹部の人事異動

・14日, 大統領令により, コンゴ(民)国軍(FARDC)の幹部の人事異動が行われた。2010年6月に人権活動家のチェベヤ氏らの殺害を指示した疑いで警察長官の職を追われ, その後 FARDC に

復帰していたジョン・ヌンビ将軍は、FARDC の監察官 (inspecteur general) の要職に任命された。また24日には、FARDC の防衛区等に関する再編成が発表された。

(6)カビラ大統領の上下両院合同会議での演説

・19日、上院と国民議会は合同会議を招集し、カビラ大統領が、「国家の状況」に関する演説を行った。選挙プロセスについては、12月に予定されている選挙は予定どおり行い、憲法を遵守すると述べた。また、選挙費用は国が全額負担することを繰り返した。

(7)ラマザニ新駐日大使の任命

・18日、大統領令により、ラマザニ・ビン・カティマ氏が新駐日コンゴ(民)大使に任命された(19日付 ACP)。

(8)フランス及びベルギー人への査証発給停止決定とその撤回

・24日、イルンガ在外コンゴ人担当大臣は、フランス人及びベルギー人に対し、人道及び医療目的以外の査証の発給を行わない旨の決定を行ったが、26日になり、同決定を撤回した(26日付 AFP)。

(9)元大統領の地位に関する法案の公布

・27日、カビラ大統領は、在職中の罪で告訴はされない等の元大統領(及び両院議長)の地位に関する法律を公布した(30日付 ACP)。

(10)野党の動向

ア MLC の動向

- ・12日-13日、野党 MLC は党会議を開催し、ジャン＝ピエール・ベンバ党首を同党の大統領候補に選出し、投票機器 (machine a voter) の使用を拒否する決定を行った。同会議には大統領多数派 (MP) 側からラマザニ・シャダリ PPRD 常任事務局長及びアトゥンドゥ報道官、その他フェリック・ス・チセケディ UDPS 党首、カメレ UNC 党首、ムジト元首相等も参加した。
- ・23日、バザイバ MLC 幹事長は自身のツイッターに、ベンバ MLC 党首は8月1日にコンゴ(民)に帰国予定であり、国民(特にキンシャサ市民)はンジリ国際空港で暖かく迎えるよう求めるメッセージを伝える自身の動画を掲載した。
- ・24日、ベンバ MLC 党首は、ブリュッセルのホテルで、6月8日に国際刑事裁判所 (ICC) の上訴審で無罪判決を受けてから初となる記者会見を行い、8月1日にコンゴ(民)に帰国し、大統領選挙立候補の届け出を行う意思を示した。
- ・26日、MLC は、ベンバ党首は31日に南ウバンギ州ゲメナに到着し、翌8月1日にキンシャサ入りすると発表した(その後、8月1日にキンシャサ到着に再度変更された)。

イ 野党プラットフォーム「Rassemblement」の選挙に関する要求事項

・18日、野党プラットフォーム「Rassemblement (ラッサンブルマン)」は3日間の協議結果に関する声明で、12月23日の選挙に向けて、投票機器を排除する、カビラ大統領は3選に出馬しない等、5つの要求事項を発表した。

ウ カトゥンビ元カタンガ州知事の動向

- ・24日、カトゥンビ氏の弁護を務めるデュボン＝モレッティ弁護士 (Eric DUPOND-MORETTI) は、パリにある自身の事務所でカミタツ ARC 党首 (カトゥンビ氏の公式報道官) とともに記者会見を行い、カトゥンビ氏に着せられた3件の司法事案は、カビラ大統領がカトゥンビ氏の大統領選挙立候補を妨げるための茶番であり、カトゥンビ氏の帰国を禁じるものは何もない等述べた。また、カトゥンビ氏のイタリア国籍所有疑惑を完全否定した。
- ・30日、カトゥンビ氏はコンゴ(民)の民間航空当局に対し、自身を含む7名が搭乗する航空機の

ルブンバシ市ルアノ空港への8月3日の着陸許可を求めた。また、同機の着陸が拒否された場合には、ザンビア経由で陸路にて帰国する用意があると伝えた(30日付 AFP)。

(11) 独立国家選挙委員会(CENI)の動向

ア 州議会選挙立候補受付締切りの延期

・11日、独立国家選挙委員会(CENI)は、8日の締切りが予定されていた州議会選挙立候補の受付に関し、10日までの締切り延期から再度12日夕方まで延期すると発表した。理由はロジスティック面の理由によるもの(11日付 Radio Okapi)。

イ 州議会選挙立候補者数

・26日、CENI は州議会選挙立候補者の暫定名簿を発表した。州議会議員の定数715議席に対し19,713名の立候補が受け付けられ、136名の立候補は受付を拒否された(27日付 ACP)。

2. 外交

(1) カビラ大統領のアンゴラ訪問の中止

・23日、カビラ大統領はロウレンソ・アンゴラ大統領と会談を行うためのアンゴラ訪問を、直前になり中止した。

(2) ルワンダ外相のキンシャサ訪問

・25日、ルイーゼ・ムシキワボ・ルワンダ外相がキンシャサを訪れ、二国間関係の強化と、仏語圏(フランコフォニー)国際機関(OIF)事務総長への立候補に関し協議を行った。

・26日にはカビラ大統領を訪れ、カビラ大統領はOIF事務総長選挙での支援を約束した(27日付 Le Potentiel)。

3. 東部及び大湖地域情勢

北キブ州エドアール湖における国境をめぐるウガンダとの紛争

・4日、ウガンダ海軍は、ウガンダ領内に侵入したとして、十数隻のコンゴ人漁師の乗った丸木舟を拿捕し、漁師を捕捉した。

・5日、コンゴ(民)海軍はウガンダ側の船を攻撃し、ウガンダ側に兵士4名と市民3名の死者が発生した。

・9日、パルク北キブ州知事は、大湖地域国際会議(ICGLR)による合同メカニズムが調査を終了するまでの間、同湖における漁業活動を中断するよう求めた。これまでに約100名のコンゴ(民)人がウガンダ側で拘束されている。

4. その他

(1) FEC(コンゴ企業連合)が最低賃金(SMIG)の今年初頭からの適用を要求

・25日、FEC(コンゴ企業連合)は、5月22日に省令によって制定された最低賃金(SMIG)7,075コンゴ・フラン(約4ドル)を、今年1月1日から適用するよう求めた。

(2) 米及び MOUSCO による投票機器に関する意見表明

・26日、国連安保理のコンゴ(民)情勢に関する協議で、コーヘン米国連次席大使は、投票機器(machine a voter)の使用に関し、「重大なリスクがあり無益である」との懸念を表明した。

・同協議にテレビ会議で参加したゼルギ MONUSCO 代表は、コンゴ(民)の選挙プロセスは進捗が認められるが、特に投票機器の問題について不信感が継続していると発言した。